

第43期 報告書

2017年6月1日 ▶ 2018年5月31日

Contents

株主の皆様へ

2018年5月期業績(連結)

2018年5月期業績のポイント(連結)

2018年5月期セグメント別概況(連結)

2019年5月期業績見通し(連結)

2018年5月期海外業績の概況(連結)

TOPICS 製品紹介

「バイオフィotonics」

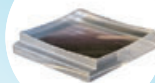
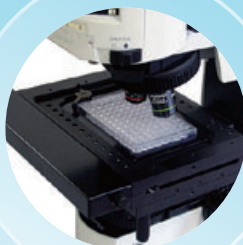
TOPICS 海外展示会出展

CSR活動

株主様アンケート結果のご報告

連結財務諸表

株式の状況／会社概要



シグマ光機株式会社

光なら、きっとできる。

Light Solutions for Life.

経営理念

Light Solutions
forLife®
光なら、きっとできる。

「感謝」「挑戦」「創出」

シグマ光機株式会社

代表取締役社長 近藤 洋介

我社は光産業を通じ、社会に貢献します。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

AI・IoT等の急激な情報化の進展、健康長寿社会への期待の高まり、安心・安全なエコ社会の実現。

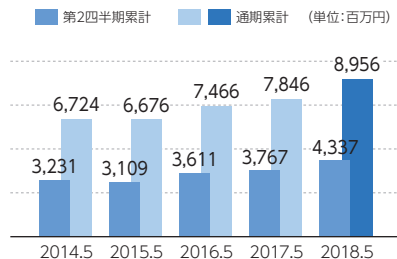
人々がより幸せで、より豊かにくらす社会への関心が、かつてないほど高まっております。このような社会の実現には、高度な光技術が欠かせなくなっており、今まさに「光の時代」の到来を迎えようとしています。そして、「光」が持つ無限の可能性を1つずつ形にしてきた、「光ソリューション・カンパニー」であるシグマ光機グループに対しても、大きな期待をお寄せいただいております。

「我社は光産業を通じ、社会に貢献します。」という経営理念の下、常に価値ある製品・ソリューションを提供してきたシグマ光機グループは、弛まぬ光技術の革新とともに、「知の融合」、「人材の育成」、「ものづくり力の強化」を推進して、5年先、10年先を見据えた果敢な挑戦と新たな価値の創出を続けてまいります。

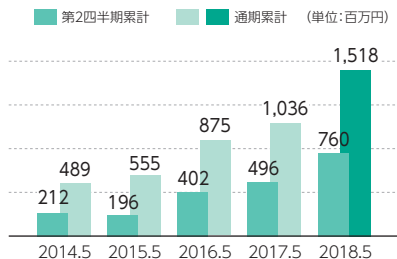
持続的な成長と企業価値の向上、着実な株主還元により、皆様の信頼とご期待にお応えしてまいりますので、株主の皆様におかれましては、今後とも何卒ご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年5月期業績（連結）

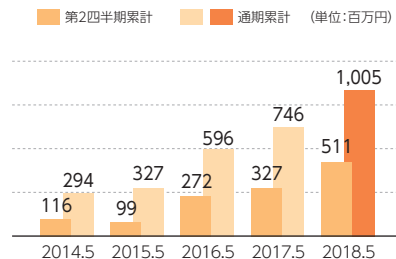
売上高 89億56百万円
(前年同期比 14.1%増)



経常利益 15億18百万円
(前年同期比 46.5%増)



親会社株主に帰属する当期
(四半期)純利益 10億05百万円
(前年同期比 34.7%増)



POINT 1

産業分野向けの需要拡大により、売上高が増加

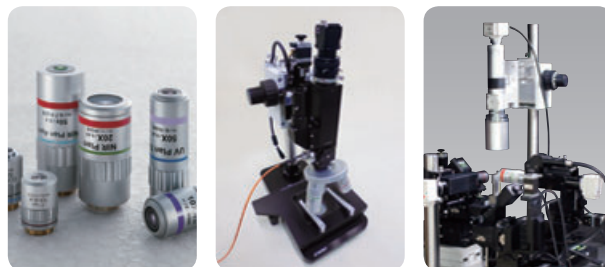
当期は、世界景気の回復基調を背景に、研究開発分野及び産業分野ともに堅調に推移いたしました。マーケット別では、国内・アジア地域を中心にスマートフォン・車載デバイス等に関連する半導体・電子部品業界向けやFPD業界向けの需要が拡大し、米国地域では、パイオ業界・医療業界向けや半導体業界向けの需要が堅調に推移いたしました。また、欧州地域の需要も増加した結果、前年同期比で連結売上高は増加いたしました。



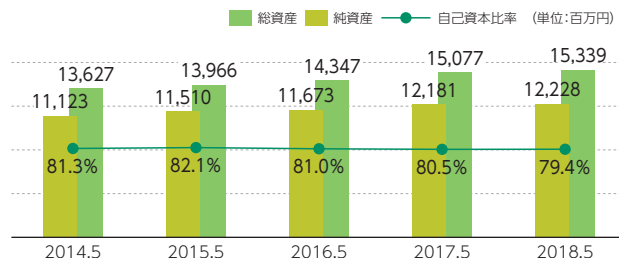
POINT 2

光学ユニット製品が好調に推移し増益

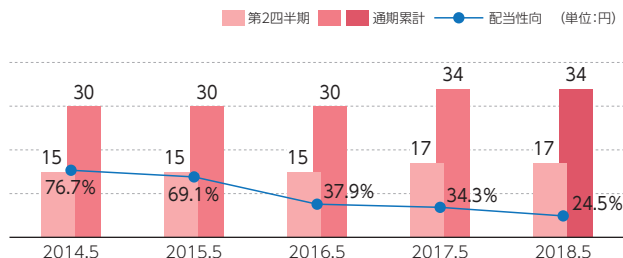
当期は、光学要素部品及び光学システム製品ともに、売上高が増加いたしました。特に、利益率の高い光学ユニット製品の特注リピート案件や、OEM案件の需要増加により、光学システム製品セグメントの利益率が改善いたしました。生産工程の見直しに加え、先行手配、計画生産等による生産性改善や、全社的な経費削減に取り組んだ結果、連結決算の全利益項目において、前年同期比で増益となりました。



総資産・純資産・自己資本比率



配当金、配当性向



2018年5月期セグメント別概況（連結）

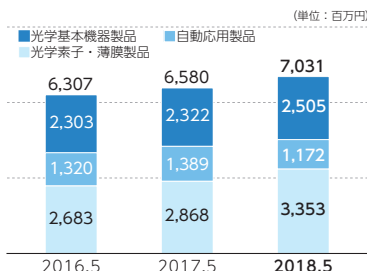
▶ 要素部品事業

■ 売上高



6.9% 増

（前年同期比 450百万円増）



ポイント

エレクトロニクス業界向けが堅調

堅調な世界経済を背景に、大学・官公庁向け研究開発分野及び産業分野向けともに堅調に推移いたしました。産業分野向けでは、スマートフォン等に関連するエレクトロニクス業界向けの需要が堅調に推移いたしました。また、米国地域では、バイオ・医療業界向け及び半導体業界向け等の需要が堅調に推移いたしました。

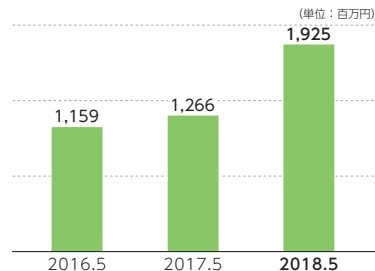
▶ システム製品事業

■ 売上高



52.0% 増

（前年同期比 658百万円増）



ポイント

産業分野向け光学ユニット製品が好調

産業分野で設備投資の増加基調が続き、半導体及びFPD等に関連するエレクトロニクス業界において、レーザ加工機・検査装置への組み込み用途の光学モジュール・光学ユニット製品の需要が好調に推移いたしました。バイオ業界向けでは、光学測定・分析装置製品や観察光学系システム製品の需要が増加傾向にあります。

2019年5月期業績見通し（連結）

エレクトロニクス業界での旺盛な設備投資需要を背景に、次期につきましても当社への需要は堅調に推移すると見込まれております。当社グループでは、グローバルブランド「OptoSigma®」の認知度向上をウェブサイトや展示会を通じて強力に推進するとともに、新技術・新製品の開発体制を強化して、既存市場の掘り起しや新規市場への参入を図ってまいります。また、第44期通期配当は40円（予定）とし、安定的な配当を実施してまいります。

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	配当額
9,360 百万円	1,620 百万円	1,695 百万円	1,105 百万円	40 円（※通期累計額）
（前年同期比4.5%増）	（前年同期比13.0%増）	（前年同期比11.6%増）	（前年同期比9.9%増）	配当性向（見通し） 25.6%

2018年5月期海外業績の概況（連結）

●海外グループ会社売上高

売上高（連結）
8,956百万円



シグマ光機株式会社
7,998百万円



OptoSigma
Europe
383百万円



上海西格玛光机有限公司
543百万円

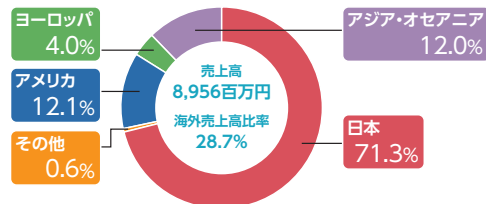


OptoSigma
1,264百万円

（※企業グループの内部売上高を含む）

●顧客所在地別概況

■海外売上高構成比



■顧客所在地別売上高・営業概況

日本	6,383 百万円	世界経済の回復傾向を背景に設備投資の増加が見られ、需要は堅調に推移。エレクトロニクス業界向けのレーザー加工機や検査装置への組み込み用途の光学ユニット製品が好調。
アメリカ	1,083 百万円	良好な雇用・所得環境や生産活動の拡大基調を背景に、景気は堅調に推移。バイオ・医療業界向けや光計測業界向けの組み込み用途の光学製品の需要が堅調に推移。
ヨーロッパ	362 百万円	個人消費の持ち直しやEU域外への輸出の増加を背景に、景気は緩やかな回復基調で推移。大学・官公庁向け研究開発分野及び産業分野向けの需要が増加傾向。
アジア・オセアニア	1,077 百万円	中国や一部新興国の景気が持ち直し、スマートフォン、半導体・電子部品、FPD等に関連するエレクトロニクス業界向けの組み込み用途の光学ユニット製品の需要が拡大。

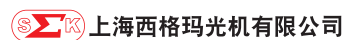
》グループ会社概況



2018年度は、売上高が前年比15%増加し、\$11Mを達成しました。官公庁・研究所向けの拡販や、OptoSigma®ブランド認知度の向上に注力し、ウェブやSNS活用の他、展示会出展も増やしてまいります。さらに、新市場開拓や販売拡大に向けて米国東海岸の販売チャネルを強化し、次なる目標として売上高\$20Mの達成を目指します。



欧州地域の販売子会社として4期目を迎えました。OptoSigma®ブランドの認知度向上に注力し、ECサイト経由の直販が前年比50%以上成長するなど、2018年度の売上高は前年比30%増加し、黒字化を達成しました。EU現地の人材採用を進め、現地の研究者及びOEM顧客向けの販売を強化し、早期に売上高€10Mの達成を目指します。

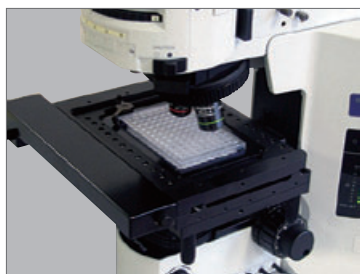


現在、第25期と節目の期を迎え、「生産性の向上とコストの低減」を命題に更なる成長を目標として事業に取り組んでおります。第24期は、売上高が前年比20%増加し、初めて32百万元を達成しました。今後も高付加価値製品の安定供給を目指して、生産技術と生産効率の向上に努めてまいります。

光学分野で培った技術を基に、皆様の「くらし」や「いのち」を支える バイオ研究に光ソリューションを提供しています。

弛まめ光技術の革新や光製品の提供を通して、人々の生活を豊かにする「Light Solutions for Life®」の実現に向けて、バイオ分野にも事業を展開しています。バイオ研究をサポートする当社のアプリケーション製品を紹介します。

顕微鏡用の自動位置決めステージ



遠隔操作で観察対象物のサブミクロン単位での微細な位置決めができる顕微鏡用自動ステージです。透過・落射照明を使用した様々な顕微鏡に対応し、あらゆるサンプルの検査・画像取得に威力を発揮します。光学式リニアスケールの内蔵によるフィードバック制御で、高い繰り返し位置決め精度を実現します。



顕微鏡の周辺で生物観察をサポート

近赤外レーザーで任意の細胞の遺伝子を発現させる「IR-LEGO」は、遺伝子機能を探る新しいツールとして期待されています。

また、任意の細胞をレーザーで非接触にトラップして動かす「光ピンセット」もラインナップしています。

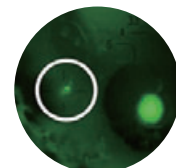


光ピンセットMini



IR-LEGO

IR-LEGO使用例
(ゼブラフィッシュ
脳のGFP発現誘導)



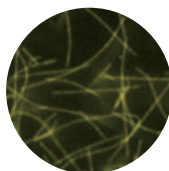
【写真提供】

独立行政法人
産業技術総合研究所
弓場俊輔博士、
基礎生物学研究所
亀井保博博士

顕微鏡の新しい形「コアユニット顕微鏡」



コアユニット顕微鏡の使用例
フィラメント状の生体分子、
蛍光微小管の観察像
(1本の直径：25nm)



【サンプル提供】東京大学

「コアユニット顕微鏡」は新設計の組立型の顕微鏡製品です。機能ごとにユニット化した構成部品を目的に応じて組み合わせることで、小型顕微鏡や蛍光顕微鏡などを低コストで構築することができます。微細な生体分子も観察可能な性能と、従来型の顕微鏡にない拡張性を持つことから、観察手法が多様化する先端研究や医療分野での活用が期待されています。より高度な観察機能を組み込むオプション製品群についても現在開発中です。

シグマ光機は、世界の主要な展示会に積極的に出展しています。

アメリカ展示会「SPIE Photonics West 2018」に出展しました。 1/30(火)～2/1(木)



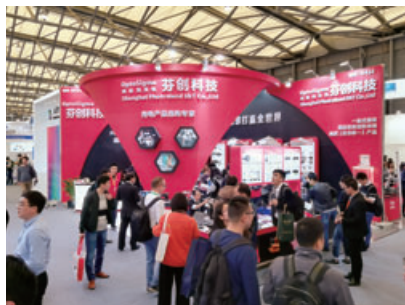
●主な展示製品：コアユニット顕微鏡、ケージシステム、レンズユニット、小型自動ステージ、真空対応製品、その他光学要素部品等

本年も、光学・レーザ関連の世界最大規模の展示会「SPIE Photonics West 2018」に出展いたしました。(2006年初出展からの継続出展。)

今年は、会場入り口付近の好立地に昨年比2倍の展示ブースを構え、協力会社様とのコラボ製品の展示スペースを設けて、製品ラインナップを強化するなどの工夫を凝らした結果、昨年実績の2倍を超える多くの方々にご来場いただきました。

本年の展示では、高耐力、微細化、そしてコンパクト化が進む産業分野向け、及び耐環境性等の高性能と使いやすさが求められる大学・研究所向けに対応した製品を展示して当社の中核技術を融合した顧客ニーズ対応力をアピールいたしました。来場者からは、製品機能や品質・価格面においてご好評をいただき、当社製品及び当社ブランドにつきまして高い関心が寄せられました。今後も、グローバルブランド「OptoSigma®」認知度の向上、ビジネス機会の拡大、業界動向の把握のために、世界の主要展示会への出展を継続してまいります。

「LASER World of PHOTONICS CHINA 2018」 3/14(水)～16(金)



中国では最大、世界でも有数のレーザ・光学技術展示会「LASER World of PHOTONICS CHINA 2018」に、中国の代理店様と共同出展いたしました。様々な来場者と直接製品に触れながら交流を更に深める中、中国市場のポテンシャルの大きさと今後さらに増してくる重要性を再確認できました。

「14th Optatec」 5/15(火)～17(木)



欧州地域での拡販及び当社グローバルブランド認知度の向上のため、ドイツのフランクフルトで開催された「14th Optatec」に出展いたしました。当社フランス現地子会社の単独出展は初めてでしたが、今後も継続的に出展することで、グローバル認知度の向上及び欧州地域の拡販を強力に推進してまいります。

● 働き方改革の推進

当社は、女性従業員を含む全ての従業員が継続的に安心して就業するために、様々なライフステージに合わせた働き方の実現に取り組んでいます。今後も、従業員が活躍するために、社内制度の充実と職場環境の整備を推進し、働きやすく、働きがいのある会社風土の醸成を図っていきます。従業員のワーク・ライフ・バランス実現に向け、下記の行動計画を策定しています。

女性活躍推進に基づく行動計画

■ 計画期間

2016年4月1日～2021年3月31日（5年間）

■ 数値目標の進捗状況（2018年5月末日時点）

- ・ 製造、開発職種の女性人員数
81名 ⇒ 90名（目標：99名）
- ・ 管理職の1つ下の階層（係長相当職）の女性人員数
10名 ⇒ 10名（目標：15名）

働く女性サミット

将来のリーダー候補の拡大のために、女性リーダー育成プログラム「働く女性サミット」を実施しています。今期は、他社で活躍されている女性リーダーを招聘し、参加者と意見交換を行い、新しい価値観の創造を支援いたしました。



次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画

■ 計画期間

2018年6月1日～2022年5月31日（4年間）

■ 目標

- ・ 従業員の育児休業取得率の向上を図る。
- ・ 子の看護休暇、介護休暇の制度拡充・周知により取得率向上を図る。

制度利用状況

- ・ 育児休業の取得状況
2016年5月期：3名
2017年5月期：6名（内男性1名）
2018年5月期：5名
- ・ 育児短時間勤務制度利用者数
2018年5月末現在：8名



※詳細は当社のホームページをご参照ください。

http://www.sigma-koki.com/pages/company/wlb_jp.php



● 光の寺子屋



2006年より東京本社近隣の小中学校を対象に科学教室「光の寺子屋」を継続して開催しています。

科学の不思議の体験を通して、次世代を担う子どもたちの知的好奇心を広げ「科学する心」を育んでいます。

● ISO9001/14001再認証取得

2006年に国内全事業所において、国際標準化機構（ISO）の品質マネジメントシステム「ISO9001」及び環境マネジメントシステム「ISO14001」の一括認証を取得いたしました。製品品質の向上とお客様満足度の最大化のため、品質に関連する不適合の予防・是正や、環境に配慮した活動に取り組んでいます。

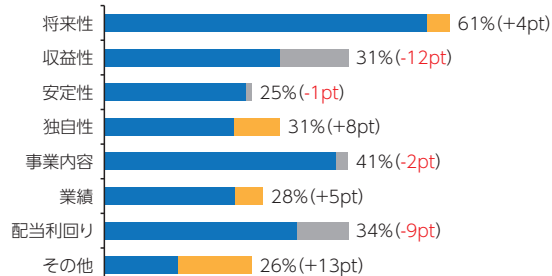
2017年11月にはISO認証の「ISO9001：2015」、「ISO14001：2015」を再認証し、継続的な活動を推進しています。

株主様アンケート結果のご報告

株主様アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

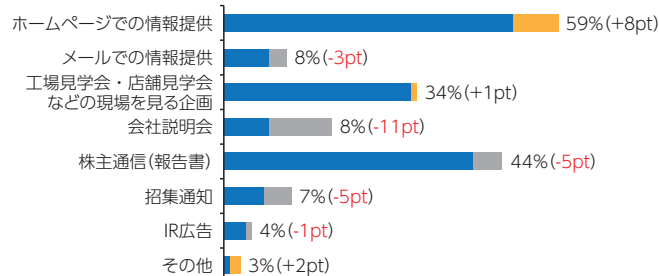
第43期中間報告書で実施させていただきましたアンケートにつきまして、アンケート対象の全株主様3,375名（2017年11月30日時点）の約2%に相当する71名の株主様からのご回答をいただきました。お寄せいただきましたご意見・ご要望等は、今後の会社経営及びIR活動に活かしてまいります。

●当社株式を購入された理由



※括弧内は、対第42期中間比

●充実を期待するIR活動



※括弧内は、対第42期中間比

株主様からのご意見

Q 無理な売り上げ拡大でなく、堅実な収益の確保を望む。

A 当社は、創業以来、「我社は光産業を通じ、社会に貢献します。」を経営理念とし、「お客様の欲しいものを形にする」ことに挑戦を続けております。真の「ものづくり」を追求して、環境変化にも柔軟に適応し、高付加価値製品の早期開発等といった収益力向上に取り組んでおります。また、持続的に成長するために、マーケット拡大、設備投資、人材育成、バリューチェーン強化等を行い、堅実な収益基盤づくりも積極的に進めております。

Q 取扱商品はどのような先に販売しているのか。今後の動向も含め記載していただきたい。

A 当社は、レーザ光を中心とした光学製品を製造しており、エレクトロニクス業界等の産業分野の加工装置・検査装置向け組込み用途から、バイオ・医療、航空、宇宙、通信等の学術研究開発分野向けにまで、幅広くご採用いただいております。最先端の研究開発分野に果敢に挑戦し、産業分野にも積極的に展開する等、拡大する光技術のニーズにマッチした光ソリューションを提供することで、お客様の信頼と期待に応えてまいります。

株主様からのご意見・ご要望のご紹介

- レンズ及びそのシステム製品ならば、何でも来いの今の路線を更に伸ばして欲しい。
- 光技術の躍進を期待します。
- CSR活動の記事に興味深く読ませていただきました。
- 御社製品を愛用しています。今後も素晴らしい製品を生み出してください。

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当 期 2018年5月31日現在	前 期 2017年5月31日現在
(資産の部)		
流動資産	9,161	8,986
固定資産	6,177	6,090
有形固定資産	2,756	2,777
無形固定資産	142	150
投資その他の資産	3,279	3,163
資産合計	15,339	15,077
(負債の部)		
流動負債	2,106	1,979
固定負債	1,004	916
負債合計	3,111	2,895
(純資産の部)		
株主資本	11,910	11,931
その他の包括利益累計額	263	201
非支配株主持分	55	48
純資産合計	12,228	12,181
負債・純資産合計	15,339	15,077

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期 2017年6月 1日から 2018年5月31日まで	前 期 2016年6月 1日から 2017年5月31日まで
売上高	8,956	7,846
売上原価	5,122	4,773
売上総利益	3,833	3,073
販売費及び一般管理費	2,400	2,160
営業利益	1,433	912
経常利益	1,518	1,036
親会社株主に帰属する当期純利益	1,005	746

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期 2017年6月 1日から 2018年5月31日まで	前 期 2016年6月 1日から 2017年5月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	986	826
投資活動による キャッシュ・フロー	63	△536
財務活動による キャッシュ・フロー	△941	△122
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△48	△19
現金及び現金同等物の 増減額	60	148
現金及び現金同等物の 期首残高	2,799	2,650
現金及び現金同等物の 期末残高	2,859	2,799

》 解 説 ポ イ ン ト

● 連結貸借対照表

<資産の変動>

流動資産は、前期末比で2.0%増加いたしました。これは、電子記録債権が増加し、現金及び預金が増加したことなどによるものです。固定資産は、前期末比で1.4%増加いたしました。これは、投資有価証券が増加し、繰延税金資産が増加したことなどによるものです。この結果、総資産は、前期末比で1.7%増加いたしました。

<負債の変動>

流動負債は、前期末比で6.4%増加いたしました。これは、支払手形及び買掛金、未払法人税等、短期借入金が増加したことなどによるものです。固定負債は、前期末比で9.6%増加いたしました。これは、長期借入金、退職給付に係る負債が増加したことなどによるものです。この結果、負債合計は、前期末比で7.4%増加いたしました。

<純資産の変動>

純資産は、前期末比で0.4%増加し、自己資本比率は、79.4%となりました。

● 連結キャッシュ・フロー計算書

当期の現金及び現金同等物の期末残高は、前期末比で6千万円の増加となりました。

営業CFは、税金等調整前当期純利益、減価償却費、仕入債務の増額でそれぞれ増加し、法人税等の支払、売上債権の増額でそれぞれ減少いたしました。投資CFは、定期預金の払戻による収入により増加し、定期預金の預入や有形・無形固定資産の取得による支出などで減少いたしました。

財務CFは、長期借入れによる収入で増加し、自己株式の取得や配当金の支払、長期借入金の返済などの支出により減少いたしました。

詳細の情報はこちらをご覧ください。 http://www.sigma-koki.com/pages/ir/index_jp.php



株式の状況／会社概要

株式の状況 (2018年5月31日現在)

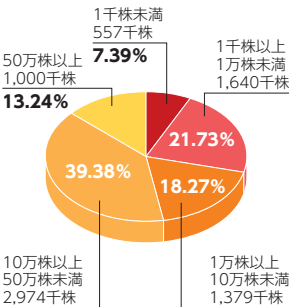
①発行可能株式総数	32,000,000株
②発行済株式の総数	7,552,628株
③株主数	3,518名 (前期末比163名減)

④主要株主

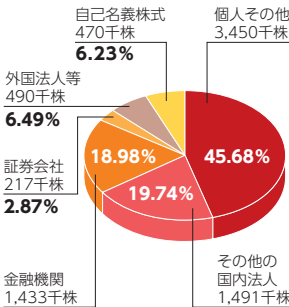
株主名	所有株数 (千株)	持株比率 (%)
浜松ホトニクス株式会社	1,000	14.12
シグマ光機取引先持株会	376	5.32
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	368	5.20
森 聡二	230	3.26
シグマ光機従業員持株会	228	3.22
株式会社埼玉りそな銀行	203	2.87
富国生命保険相互会社	200	2.82
株式会社津島建材	172	2.44
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	152	2.15
株式会社サンライズクリエート	148	2.09

- (注) 1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、小数点第3位を四捨五入して表示しております。
3. 持株比率は、自己株式(470,304株)を控除して計算しております。

所有株数別株式分布状況



所有者別株式分布状況



- (注) 1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、小数点第3位を四捨五入して表示しております。
3. 自己名義株式(470,304株)を含んでおります。

会社概要 (2018年8月30日現在)

社名	シグマ光機株式会社
本社	埼玉県日高市下高萩新田17番地2
設立	1977年(昭和52年)4月
資本金	26億2,334万円
従業員数	339名(2018年5月31日現在)
役員	代表取締役社長 近藤 洋介 取締役 中村 良二 取締役 多幡 能徳 取締役 小林 祐二 常勤監査役 山口 秀一 監査役 南雲 幸一 監査役 野崎 誠

- (注) 1. 小林祐二氏は社外取締役であります。
2. 南雲幸一氏及び野崎誠氏の2氏は社外監査役であります。
3. 社外監査役 野崎誠氏は独立役員であります。

❖ 主な事業所

- 本社・日高工場 ● 東京本社 ● 大阪支店
- 九州営業所 ● 能登工場 ● 技術センター

❖ 関連会社

- OptoSigma Corporation
- OptoSigma Europe S.A.S.
- 上海西格瑪光机有限公司
- タックコート株式会社

当社の報告書は、「UDフォント」を採用しています

視認性、判読性に優れたユニバーサルデザイン(UD)書体を使用し、弱視・老眼等視力の低下にお悩みの方にも読みやすいよう配慮をしております。



株主メモ

事業年度 毎年6月1日から翌年5月31日まで
定時株主総会 毎年8月開催
基準日 定時株主総会 毎年5月31日
期末配当金 毎年5月31日
中間配当を行う場合は、毎年11月30日

単元株式数 100株
公告方法 電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。
電子公告URL <http://www.sigma-koki.com/>

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の【特別口座について】をご確認ください。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)  **0120-782-031** (通話料無料)
(インターネット ホームページURL)
<http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、みずほ信託銀行株式会社に口座(特別口座といます。)を開設しております。左記株主名簿管理人とはご照会先及び住所変更等のお届出先が異なりますのでご注意ください。

〈特別口座に関するご照会先〉

(特別口座 口座管理機関) みずほ信託銀行株式会社
(郵便物送付先) 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)  **0120-288-324** (通話料無料)

株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社は、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、

アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



<https://www.e-kabunushi.com/>
アクセスコード 7713

いいかば

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjfm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。

(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com



シグマ光機株式会社

東京本社 東京都墨田区緑1-19-9
TEL.03-5638-8221(総務部)

